

PIARC 札幌大会 ふゆトピア・フェア報告

これまでも、本誌で紹介をさせていただいた標記大会については、本年1月28日(月)から31日(木)までの間開催され、成功裡のうちに終了しました。本号では、その結果報告をさせていただきます。

PIARC 札幌大会現地実行委員会／ふゆトピア・フェア実行委員会
合同実行委員会事務局

1. ふゆトピアシンポジウム (全国克雪利雪シンポジウム)

日時：1月28日(月)13:00～16:00

場所：札幌市民会館

冒頭で、主催者代表(ふゆトピア・フェア実行委員会委員長)である北海道開発局平野道夫局長、御来賓として国土交通省佐藤静雄副大臣(代理、林延泰北海道局長)からの挨拶の後、基調講演では(株)北洋銀行取締役会長である武井正直氏より、公共事業批判がある中のインフラ整備をどう考えていくか、住みよさ快適な環境といった北海道の優位性を活かすべき、という提案がされた。また、秀名大学教授である西部邁氏より、官と民それぞれの横断的協調で具体的なプロジェクトを、という提案がされた。基調講演に引き続き、上記お二人に加え、NHK解説委員の藤田太寅氏をコーディネーターとして鼎談が行われた。

シンポジウムの最後には、来年の「ゆきみらい」の開催地である石川県小松市の西村徹市長からの、小松市の紹介で締めくくられた。

このシンポジウムには約1,200人の参加者があり、会場は満員となった。



写真-1 ふゆトピアシンポジウム鼎談風景

2. 第11回PIARC国際冬期道路会議 札幌大会

PIARC 札幌大会は、国内外64の国・地域・機関から2,285名(内、同伴者登録が70名)の参加登録、展示会の来場者が会期中を通じて合計76,700名と当初立てていた予想をはるかに超える規模で盛況のうちに終わった。

1) 開会式～ウエルカムレセプション

日時：1月28日(月)17:00～22:00

場所：札幌ドーム内特設ステージ他

冒頭、北海道の気候風土や文化を紹介するビデオが上映された後、第11回国際冬期道路会議議長鈴木道雄氏の開会宣言に引き続き、PIARC会長オリビエ・ミショー氏、来賓として、国土交通省技監青山俊樹氏、北海道知事堀達也氏、札幌市長桂信雄氏が挨拶をした。さらに、大会概要の説明並びに参加国の紹介を行い、自国を紹介された参加者は挙手をするという趣向を凝らしたこともあって、4,000人を下らないと思われる観客席は歓声に満ち溢れた。



写真-2 開会式

続いて、アトラクションとして北海太鼓を始めとする我が国の雪国を代表する伝統芸能を披露し好評を得た。

次に、展示会の開会挨拶並びにテープカットを行い、引き続き、展示会場を利用したウェルカムパーティーが開催された。このパーティーではジャガイモ、とうもろこし等北海道の名産品を用意し、参加者の評判を博した。

2) オープニングセッション

日時：1月29日(火)9:30～12:00

場所：札幌ドーム内特設ステージ

ここでは、雪と道路に関連して3名が基調講演を行った。

(日)アドルフ・オギ氏

スイス連邦前大統領、国連事務総長特別顧問(開発及び平和のためのスポーツ担当)のアドルフ・オギ氏は、1972年の第11回冬季オリンピック札幌大会にスイス選手団団長として来札した経験を持ち、今大会への参加について大きな喜びを表された。また、オリンピックをはじめとする様々なイベントや市民の冬期間の生活を支える札幌の道路ネットワークの充実を評価し、雪国における安全な生活や地域間の交流を支えるために道路整備、特に冬期間の道路サービスの重要性、さらには、雪国の発展に資するスポーツの効果の大きさを述べられた。



写真-3 アドルフ・オギ氏講演

(月)大石久和氏

国土交通省道路局長、PIARC日本国第一代表の大石久和氏が「冬期道路交通政策と新たな挑戦」と題して、過去の豪雪災害や吹雪による冬期通行障害など国土構造上、我が国の雪国の抱えるハンディキャップやそれを克服するための冬期道路交通政策のこれまでの取り組み、日本全体における雪国の位置付けの重要性を紹介した。さらに、交流や国際化

が一層発展する雪国の新しい要請に対する今後の取り組みとして、ITSを活用した新技術や高度情報化への対応等、道路ユーザーへのサービスレベルの向上に向けた新たな冬期道路交通政策の方向性を提案した。

(火)赤祖父俊一氏

アラスカ大学フェアバンクス校国際北極圏研究センター所長の赤祖父俊一氏が「オーロラと北極圏」と題して、北極圏の生活や自然、オーロラのメカニズムの解説、その観測から得られる地球規模の環境の変化について講演された。

特にオーロラは、地球両極の磁場を荷電粒子が移動することで機能する、発電装置と見なせるとし、地上だけでなく、人工衛星から撮影した幻想的な動画を含む映像で参加者を魅了した。

3) 技術研究発表

日時：1月29日(火)～31日(木)

場所：札幌ドーム内会議室

技術論文は、「New Challenges for Winter Road Service」の大会テーマのもと、6つのトピックスに対し募集を行い、査読審査を経た、26カ国、169編がCD-ROMで出版された。当日は発表をキャンセルした論文が7編あり、口頭発表、ポスター発表合わせて、25カ国、162編が発表された。今回は日本における開催ということで、英語、フランス語に加え、日本語も公式言語と位置付けられ、同時通訳も3カ国語に対応して行われた。

表-1 技術研究発表トピックスと論文数

	トピック	サブトピック	論文数
特	冬期道路管理政策及び戦略	(1) 冬期道路管理 (2) 冬期道路計画 (3) 組織	18
監	雪氷マネジメントとコスト	(1) サービスレベルと道路ユーザーの責任 (2) 手法と作業システム (3) 経済効果とコスト削減	31
企	都市部における冬期道路問題と交通安全	(1) 市街地における冬期道路問題 (2) 交通安全の確保	19
協	環境とエネルギー	(1) 環境 (2) エネルギー	25
例	情報通信技術	(1) 気象・路面等情報収集技術 (2) 情報通信及び情報提供技術	32
	雪氷対策技術の開発	(1) 機械等技術の開発 (2) 雪氷対策のための最新技術 (3) 凍結防止剤	44



写真-4 口頭発表の状況



写真-5 ポスター発表の状況

大会最終日31日(木)に行われた、本大会を総括するクロージングセッションにおいて、前回のルレオ大会の事務局を務めた PIARC 冬期道路管理委員会 (C17) セクレタリーのケント・グスタフソン氏(スウェーデン)から、今大会が論文数、登録者数など、どれをとっても前大会を凌ぐ規模と内容になったことが報告された。次に、6つのトピックスにわたる論文の発表や議論を踏まえ、田崎忠行 C17 委員長及び各トピックスのコーディネーターから、「環境と整合した安全向上が、技術に支えられた社会的連携強化のもとで達成される」という会議の総括がなされた。終わりに次回、イタリアのトリノ市・セストリエール市で開催される国際冬期道路会議が、「持続可能な冬期道路管理の充実へ向けた努力の成果を分かち合う場になることが期待される。」として締めくくられた。

4) 特別セッション

日時：1月30日(水)9:00～12:00

場所：札幌ドーム内特設ステージ

将来の冬期道路サービスに関する最新の情報の提供と、知識の共有を目的として、特別セッション「21世紀における冬期道路サービス」が開催された。

この特別セッションでは、三谷浩 PIARC 前会長を議長に、ジニー・クラーク PIARC 道路及び道路管理

コーディネーターをレポーターに迎え、積雪寒冷地域の生活と道路交通、特に道路ネットワークの現況と冬期道路維持管理について、主催国の桂信雄札幌市長を含む8カ国からのパネリストによるパネルディスカッションが行われた。これに引き続き、1)冬期のモビリティと冬期道路のサービスレベル、2)安全と環境、3)官民の責任分担、4)新技術・その他の4項目について、冬期道路の維持管理における将来の方向性をさぐる議論が行われた。

5) テクニカルビジット

日時：1月29日(火)～31日(木)

札幌市内及びその周辺における冬期道路管理に係る諸施設をバスを使って視察するテクニカルビジットが実施された。

各コースの訪問施設と当日の参加者数は表-2のとおりである。

期間中は好天に恵まれたこともあり、外国人を含む約900名もの方々の参加のもと、全てのコースについて予定通りに運行することができた。

表-2 テクニカルビジットの各コースと参加者数

コース番号	コース名	訪問施設	参加者数
T-1	札幌総合情報センターと厚別融雪槽	札幌総合情報センター、厚別融雪槽	132
T-2	道路情報館と藻岩下流雪溝	道路情報館、藻岩下流雪溝	154
T-3	交通管制センターと除雪車自動運転	北海道警交通管制センター・JH交通管制室(いづれか一方)、北海道開発局防災・技術センター、札幌IC(ETC)	91
T-4	北大低温科学研究所と石狩吹雪実験場	北大低温科学研究所、北海道開発土木研究所石狩吹雪実験場	54
T-5	発寒融雪槽と周遊見学コース(A)	発寒融雪槽、発寒流雪溝、札幌ウィンタースポーツミュージアム	142
T-6	高速道路除雪ステーションと周遊見学コース(B)	北広島除雪ステーション、厚別融雪槽、札幌IC(ETC)、道央自動車道札幌IC～岩見沢IC間	147
T-7	札幌ドーム	札幌ドーム	181

6) 展示会

札幌ドームの屋内外において、一般展示会と除雪機械展示・実演会が行われた。一般展示会には、国内外15カ国から208企業・団体、178ブース、576コマの出展があった。展示内容も、除雪や建設技術はもとより、情報通信ITS、環境新エネルギー、自動車機械、交通安全等幅広い分野から技術の紹介がな

され、大変充実した内容となった。札幌ドームでの開催というユニークさと工夫された展示内容が評価されたことから、76,700人と大変多くの入場者を集めた

と思われる。また、除雪機械展示・実演会には、24団体が出品し、最新の除雪機械の展示、実演が行われ、入場者も12,500人を迎え盛況であった。

表-3 出展分野とブース数

分野	A:海外	B:情報通信・ITS	C:建設	D:機械	E:自動車	F:交通安全	G:資材・材料	H:環境	I:地域	K:屋外	合計
出展者数	24	37	27	20	4	19	11	15	37	2	208
ブース数	73	73	37	47	20	25	11	19	55	1	576



写真-6 展示会場（屋内）の状況

7) 北海道ブース

ふゆトピア・フェア実行委員会で企画および出展を行った北海道ブースでは、映像とパネルで北海道の暮らしと道を紹介した。期間中は北の道再発見コンテスト・表彰式や弦楽四重奏のミニコンサートなどイベントも行った。期間中合計、約13,000人の来場者を迎えた。



写真-7 北海道ブース

8) その他

先に述べた会議プログラムのほか、各国から参加の大臣級会議、道路局長会議、北海道知事・札幌市長招宴、コングレスディナー等様々な情報交換、意

見交換の場を設けた。また、本会議の開会式に先立ち、28日午後、「持続可能な道路維持管理」をテーマにPIARC本部主催のテクニカルプレゼンテーションが札幌市内で行われた。

31日の閉会式では、2006年に予定されている次期国際冬期道路会議の開催地であるイタリアのトリノ市・セストリエール市をはじめ、次期世界道路会議の開催地である南アフリカのダーバン、次期IRF世界大会の開催地であるタイのバンコクからのプレゼンテーションが行われた。

3. おわりに

PIARC札幌大会については、北海道で行う会議、イベントとしては非常に大規模であり、また会場もオープンしたばかりでしかも本来はスポーツ施設である札幌ドームで会議と展示会を同時に行うという皆経験の無いことを関係機関連携しながら準備にあたった。幸いにも大きな事故も無く、また、来場者についても、展示会ならびに除雪機械展示実演会、ふゆトピアシンポジウムとも予想を大きく上回り、準備にあたった関係者一同喜んでいる。

ご協力、ご来場いただいた皆様にお礼申し上げます。

（文責 谷村昌史
前北海道開発局建設部道路計画課専門官
現北海道開発局函館開発建設部道路課長）